

中国陸軍ニュース：陸軍海戦隊の建設

漢和防務評論 20150331 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国陸軍に海戦隊が建設されました。海軍には陸戦隊があり装備も同じなのでどのように任務分担するのか不明ですが、中国軍部隊には末端まで政治委員が配置され実際の指揮は政治委員が執っているので問題が起きないのでしょう。中国軍は台湾本島はもとより、南シナ海、東シナ海島嶼への上陸作戦に適した装備を充実させつつあります。漢和防務評論の記事を紹介します。

KDR 香港特電：

中国陸軍は、台湾攻略及び東シナ海、南シナ海方面の上陸作戦に備えるため、水陸両用機械化師団と RO-RO 型輸送船で構成される大規模な”陸軍海戦隊”の建設を開始した。これらの部隊は、主として対台湾作戦用である。中台関係の緊張が緩んだ場合は、東シナ海及び南シナ海の島嶼争奪戦に投入される可能性が極めて高い。2014 年 8 月、大連松遼造船所（陸軍 7814 工場）で排水量 3500 トンの RO-RO 型輸送船（KDR 名称：松遼級輸送艦）が進水した。中国陸軍の上陸艇及び突撃艇は主にここで造られる。同造船所は大量の FRP（繊維強化プラスチック）船を製造する能力がある。この輸送船は各国陸軍の中では最も大型の RO-RO 船で、艦首に傾斜した道板があり明らかに機械化部隊の水陸両用装甲車に用いられることが分かる。同時にヘリ用プラットホームがあり、戦時には垂直上陸が可能である。必要時には Z-10、Z-19 などの武装ヘリの運用が可能で、上陸時に火力支援ができる。

武器は軽量化され、2+2 個の 23MM 機関砲を搭載する。一部メディアは”総合訓練艦”と称していた。現在流布している写真は進水時の写真で、どのようなレーダー或いは電子作戦系統を搭載しているのか明確でない。通常の下況下では、陸軍用上陸艦のレーダーシステムは簡易なものが多く、航法及び気象レーダー、簡易な火器管制レーダーを搭載するのみである。

中国陸軍は、国際的にも最大規模の水陸両用作戦部隊を建設している。第一集團軍第一水陸両用機械化師団、及び第 42 集團軍第 124 水陸両用機械化師団は、05 型（輸出名称 VN-18、ZTD/ZBD-05）中国版遠征戦闘車を装備している。この種の車両は少なくとも 3 種類の型があり、30MM 機関砲を搭載したもの、105MM 砲を搭載したもの及び兵員輸送車型がある。この種の師団は、規模が大きく、兵種のバランスがとれており、通常は隷下に 2 個水陸両用機械化歩兵団、1 個水陸両用装甲団、1 個砲兵団を保有している。

上述の水陸両用機械化師団以外でも、沿海地区に駐屯する若干の集團軍機械化部隊は水陸両用作戦能力を有している。例えば、第 31 集團軍であり、1 個水陸両用装

甲旅団が隸属し、05 型遠征戦闘車を装備している。

このことは、水陸両用上陸師団がすでに装甲化を完了したことを示す。通常の下では、中国陸軍の 1 個装甲大隊は 31 両の 105MM 自走火砲を装備し、1 個機械化歩兵大隊は 31 両の装甲兵員輸送車を装備している。このように計算すると、2 個水陸両用機械化師団は、少なくとも 4 個の水陸両用機械化歩兵団を有し、全部で 372 両の 05 型装甲兵員輸送車を装備することになる。2 個装甲団は全部で 186 両の 05 型 105MM 自走火砲車を装備することになる。

第 13 集団軍の装甲旅団は 4 個大隊で編制され、少なくとも 124 両の 05 型自走砲を装備している。陸軍全体の水陸両用機械化部隊は全部で 682 両の 05 型兵員輸送車/戦闘車を有している。松遼造船所で建造された RO-RO 型輸送船の外形、寸法から判断すると、旧ソ連時代に建造された満載排水量 3200 トンの ROPUCHA 級揚陸艦に近い。実際このクラスの揚陸艦はポーランドのグダニスク造船所で建造された。したがって松遼級輸送艦は一度に 25 両前後の装甲車両を運搬することができると推測される。このように見ると、松遼級輸送艦の需要は今後大いに高まる可能性がある。第一艘目の松遼級輸送艦は確かに運用試験用に建造されたものであろう。

ここでは海軍陸戦隊を計算に入れていない。海軍陸戦隊も同じ装甲車両を装備している。しかし積載輸送は海軍の輸送船隊が行う。将来南シナ海で大規模海戦が発生し陸軍の上陸活動が行われる場合、最新型の RO-RO 型上陸艦が使用される可能性がある。2012 年 8 月 31 日の「解放軍報」紙によると、新型水陸両用機械化部隊（陸軍）演習において、数千名の将兵（団級規模？）と 1000 両以上の大型装備が、陸海空からの輸送手段により、3 日以内に 1000KM 以上離れた某海域に集結を完了したという。同報道によると、南京軍区の某水陸両用機械化師団（同軍区の第一師団は水陸両用機械化師団である）は、初めて船舶積載からの上陸方式から、戦車による渡海攻撃方式に転換したという。

この記事から、台湾海峡島嶼への上陸作戦は、05 型装甲車両による直接上陸が行われるものと見ることが出来る。したがって RO-RO 上陸船の建造は、さらに台湾本島東部、及びさらに遠方の南シナ海、東シナ海島嶼への上陸を狙ったものと思われる。2010 年以降、第 1、第 124 水陸両用機械化師団の演習では 63A 型水陸両用戦車の姿が見られない。05 型突撃車に更新された可能性がある。

以上